

福山大学 薬学部 平成30(2018)年度 自己点検・評価書

基準1. 使命・目的等

領域：使命・目的、教育目的

2018年度

薬学部

中長期計画	<p><input type="checkbox"/> 本学科は、次の使命・目的、教育研究目的を掲げ、実施する。</p> <p>(使命・目的)</p> <p>医療人としての教養と倫理観及び薬剤師としての確かな専門知識・技能を身に付け、医療や社会のニーズに対して強い責任感と探究心を持って対応し、自らの能力と専門性を高めていくことができる人材を育成することを目的としている。</p> <p>(教育研究目的)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬学の確かな知識・技能とともに幅広い視野をもって医療の最前線で活躍する薬剤師を養成する。 2. 医療人としての倫理観・使命感とともに豊かな人間性に基づいて行動する薬剤師を養成する。 3. 科学的な思考力および問題解決のための実践力をもって多様な科学関連分野で活躍する人材を育成する。 4. 豊かな創造力をもって医療の発展に貢献する人材を育成する。 5. 向上心をもちたゆまず自己研鑽を続ける人材を育成する。 <p><input type="checkbox"/> 適宜検証は行っていくが、現在の学部の目的、教育研究目的を継続していく予定である。</p>
-------	--

2018年度

薬学部

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等のそれぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 中長期計画に記載したように、使命・目的および教育目的を具体的かつ、明確に設定している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2018年度学生便覧p-130、p-261
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 「使命・目的」、「教育研究目的」は、本学部がディプロマポリシーに掲げた「薬学部の7つの資質」を反映しており、本学部の個性・特色を明示している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2018年度学生便覧p-130、p-261

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 自己点検評価委員会・外部対応委員会で検討している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①自己点検評価委員会議事録(2018.05、2019.03,)
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

薬学部

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られている。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し周知していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 薬学部の教育研究理念は、大学要覧や学生便覧に記載して大学構成員に周知している。 <input type="checkbox"/> 薬学部ホームページにも掲載して社会に広く公表している。 <input type="checkbox"/> 大学説明会、高等学校訪問、保証人懇談会でも教育研究理念の説明が行われており、周知、公表している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2018年度学生便覧p-130、p-261 ②薬学部ホームページ(http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharm/contents/ad-policy.html)
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 中長期的計画へ反映していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 本学部の使命・目的、および教育研究目的を着実に実行することを中長期計画に掲げており反映されている。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	① 自己点検評価書(報告書、計画書)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーへ反映していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 本学部の使命・目的、および教育研究目的は、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに反映されている。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを見直し、さらにアセスメントポリシーを作成した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	① 評議会(2019.02.06)議事録 ② 薬学部ホームページ(http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharm/contents/ad-policy.html)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 学部内の研究室と各種委員会で教育研究組織が構成され、使命・目的および教育目的との整合性はとれている。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	① 薬学部ホームページ(http://www.fukuyama-u.ac.jp/grd-pharm/laboratory/entry-3635.html) ② 学部内委員会
次年度の課題と改善の方策	

基準2. 学生

領域：学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

中長期計画	<p>○学生の受入れ</p> <p>□教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っているが、文部科学省の中央教育審議会答申のガイドラインなどを参考にアドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れているかなど検証を行い、必要があれば改定する。</p> <p>□定員の充足率を上げるために、本学部の特色ある教育プログラムを積極的に社会に発信する。</p> <p>○学修支援</p> <p>□学修体制の整備のため、学部FD・SD研修会、実務実習支援、薬学部学内合同企業説明会、白衣授与式などを教員と職員等で協働して実施し、学内外に公表する。</p> <p>□薬学部独自の教育支援であるSA・メンター制を充実する。</p> <p>○キャリア支援</p> <p>□薬学部の教育課程は薬剤師教育というキャリア形成を基盤としており、6年間を通したキャリア形成支援体制によりキャリア教育を実施する。</p> <p>□研究室配属後(3年後期～6年)は全教職員が就職対応委員と連携して進路支援を行う。</p> <p>○学生サービス</p> <p>□全学の学生関連委員会に薬学部教員から委員を選任し委員会会議に参加するとともに、薬学部で学生対応委員会、就職対応委員会、大学祭実行委員会を組織し、研究室やクラス担任を中心とした全教職員と連携して学生生活支援体制を整備し、運営する。</p> <p>○学修環境の整備</p> <p>□薬学部の理念・目的を達成するために必要な学修環境の整備と適切な運営・管理の方針は教職員で共有し、問題点については改善を要望する。</p> <p>□学生及び教職員の安全確保の観点をもって学修環境や劇物・危険物等を管理するとともに安全管理教育を実施する。</p> <p>○学生の意見・要望への対応</p> <p>□学修支援・学修環境・学生生活などに関する学生の意見・要望について、研究室やクラス担任を中心とした全教職員による相談、対応、助言、指導を行い、収集された意見を関連委員会に伝えて対応する。</p>
-------	---

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	□平成29年度にアドミッション・ポリシーを検証し改訂案を策定した。入試のしおり、学生便覧、大学ホームページで周知している。
年度目標	□アドミッション・ポリシーの適切性を検証する。
年度報告	□アドミッションポリシーを見直し、改訂版を策定した。改訂版はホームページで公表している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①評議会(2019.02.06)議事録 ②薬学部ホームページ(http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharm/contents/ad-policy.html)
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 現状のアドミッション・ポリシーでは入試との関連が分かりにくい表現となっている。
年度目標	<input type="checkbox"/> アドミッション・ポリシーを、文部科学省の中央教育審議会答申のガイドライン(平成28年3月)に沿ように、改定案を策定する。
年度報告	<input type="checkbox"/> アドミッションポリシーを見直し、改訂版を策定した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①評議会(2019.02.06)議事録 ②薬学部ホームページ(http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharm/contents/ad-policy.html)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 毎年、入学生受入れ状況を検証していて、原因を分析している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	平成29年度の入学生(141名)に比べ、平成30年度の入学生(128名)は大きく減少した。平成30年度入学生の全国的な薬学部志望者(89,733名)が前年度(94,241名)と比べ約4,500名減少し、中国四国地区の薬学部への志願者は前年度比約270名減少(2,668名→2,394名)している。本学では13名(431名→418名)で、善戦はしているものの、志願者は減少した。全国的薬学部志願者の減少、薬学部数の増加、および地域格差が大きな原因と考えられる。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①私立薬科大学協会だより第91号 ②自己点検評価委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 入学定員充足率は減少傾向にある。 <input type="checkbox"/> 薬剤師会主催の高校生セミナーに教員と学生を派遣し、教育内容の特色を伝えている。 <input type="checkbox"/> 学生の体験学修成果をまとめた報告書を出身高校へ送付し、大学での学修成果を高等学校へ伝えている。
年度目標	<input type="checkbox"/> 上記に加え、WSを開催し対策を検討する。
年度報告	<input type="checkbox"/> 薬学部のFD・SD研修会で、WS形式で「薬学科の入学定員を充足するためのSWOT分析」を実施し対策を検討した。 <input type="checkbox"/> 本学での学修状況について、文科省ホームページに掲載されている平成24年度入学生に関するのに関するデータを藤本主管に編集(平成24年度入学生私立薬科大学の学修状況(ストレート進級・卒業・国家試験合格))していただき、参事の先生方に高校訪問時に本学の教育が確かであること(本学合格率60%)を強く説明していただくように依頼した。 <input type="checkbox"/> 島根県や鳥取県の高校生セミナーに教員と学生を派遣し、教育内容の特色を伝えた。 <input type="checkbox"/> 学生の体験学修成果をまとめた報告書を出身高校へ送付し、手紙を添えて大学での学修成果を高等学校へ伝えた。

達成度	A
改善課題	
根拠資料	①薬学部FD・SD報告書 ②「SWOT分析総まとめ」 ③自己点検評価委員会資料 ④藤本主管作成の資料 (平成24年度入学生私立薬科大学の学修状況(ストレート進級・卒業・国家試験合格)) ⑤H29年度早期体験学習報告書、 ⑥H29年度コミュニケーション交流学習報告書、 ⑦H29年度病院・薬局実務実習報告書
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

薬学部

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の中でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 本学の各種委員会活動に委員あるいは幹事として参画することで教職協働を推進しており、委員会メンバーは福山大学諸委員会構成員名簿で学内で公表している。 <input type="checkbox"/> 学部内では学部FD・SD研修会、実務実習支援、薬学部学内合同企業説明会、白衣授与式などを教員と職員が協働して行っており、学部FD・SD研修会は学内公表している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学諸委員会構成員名簿 ②薬学部FD・SD研修会報告書 ③薬学部ホームページ(https://www.fukuyama-u.com/blog/11471/)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 5・6年次生が後輩の勉強や生活の相談相手になるメンター制度を設けている。 <input type="checkbox"/> 事前学習で5年次生がSAとなって4年次生の学修を支援している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①メンター実施原議書 ②事前学習におけるSA実績原議書
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	<p>□薬学部の教育課程は薬剤師教育というキャリア形成を基盤としており、各学年における講義、実習、演習、ガイダンスなど6年間を通してキャリア教育を実施している。</p> <p>□薬学部では1年次に「薬学入門Ⅰ」「薬学入門Ⅱ」という授業科目の中で学生を小人数のグループで地元の病院、薬局、ドラッグストア、製薬企業、卸業に実際に出向かせて、薬剤師を含めた薬学出身者の仕事を見学させ、仕事の内容について学習させ、薬学生としての自覚を持たせると同時に進路選択の一助としている。</p> <p>□5年次に行われる「実務実習」においても直接社会で働く薬剤師に接し、観察し話すことにより薬剤師としての覚悟を醸成できている。</p> <p>□薬学部では「早期体験学習実施委員会」「実務実習委員会」「薬学部就職対応委員会」「薬学部教務委員会」「学務委員会」などの委員会においてキャリア形成支援が有効に運用されている。</p> <p>□共通教育科目のキャリア教育科目のキャリアデザインⅠ(1単位必修)は薬学入門Ⅱと相互に関連して開講している。</p> <p>□インターンシップの情報を掲示等により学生に周知し、積極的に参加できるよう支援している。</p>
年度目標	□現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①H30年度早期体験学習報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間に亘る資料を収集し、検証していますか。
現状説明	<p>2015年度 卒業者数72人、内定者数62人、大学院進学0人、その他10人</p> <p>2016年度 卒業者数64人、内定者数54人、大学院進学2人、その他8人</p> <p>2017年度 卒業者数77人、内定者数67人、大学院進学2人、その他8人</p> <p>□職種と就職率を収集して、総合的に検証している。</p>
年度目標	□現状維持。
年度報告	□2018年度 卒業者数127人、内定者数119人(病院39人、薬局76人、製薬企業1人、公務員2人、大学1人)、大学院進学者3人、その他5人。その他の人数を減らすように指導している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①就職課集計資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	□薬学部の教育課程は薬剤師教育というキャリア形成を基盤としており、学部全教職員で6年間を通して資格取得やインターンシップを支援する体制を整えている。

年度目標	□現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①早期体験学習実施計画書 ②事前学習日程方略 ③病院実務実習(概略評価) ④病院・薬局実務実習担当者配属表
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 進路相談窓口として薬学部就職対応委員会を設置し、就職に関するオリエンテーションの実施や進路にかかる進捗状況の把握と就職情報の発信を行っている。 <input type="checkbox"/> 研究室主宰教員が就職対応委員と連携して学生の進路指導を行っている。 <input type="checkbox"/> 保証人就職懇談会や合同企業説明会など、また本学部卒業生を中心に各業種に関する説明会も随時開催し、学生への進路選択支援にあてている。 <input type="checkbox"/> 1年を通じて就職内定率を調査し社会情勢を勘案しながら年度毎の比較を行い就職指導について就職対応委員会が確認している。 <input type="checkbox"/> これらのことについては薬学部学務委員会で議論し、薬学部教授会で検証している。 <input type="checkbox"/> 就職体験発表会、企業研究、自己分析テスト、面接対策、グループ面接対策、エントリーシート対策等のガイダンスを実施し、学生の就職活動に対する意識向上とサポートを行っている。
年度目標	□現状維持を基本とするが、実務実習スケジュール上、ガイダンスを実施する時間が少なくなってきた中で、出来るだけ実施するよう努力する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①就職体験発表会案内 ②学内合同企業説明会案内 ③就職ガイダンス(企業研究)案内 ④就職ガイダンス(エントリーシート対策)案内 ⑤就職ガイダンス(病院小論文対策)案内 ⑥全学教授会資料(平成30年度福山大学学科別進路状況)
次年度の課題と改善の方策	

2018年度 薬学部

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 日本学生支援機構、地方公共団体や財団・企業関係の奨学金を学生課で紹介しているので、学部では学生から相談があった場合、学生課にいつて相談するよう指導している。 <input type="checkbox"/> 入学時の成績優秀者や各年度の成績優秀者には福山大学独自の奨学金制度があり、対象者には奨学金を維持するよう指導している。
年度目標	□現状維持。
年度報告	現状を維持した。

達成度	S
改善課題	
根拠資料	①大学要覧 ②学生便覧 ③評議会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> ハラスメント発生防止のための規定は全学的に整備されている。 <input type="checkbox"/> 薬学部よりハラスメント対応委員会委員に教員を選任し、かつ2人の薬学部教員が相談窓口となるハラスメント相談員となっている。学生は学部、所属を問わずいずれかの相談員と相談することができる。 <input type="checkbox"/> 毎年のオリエンテーションで薬学部学生委員が全学生にキャンパスハラスメントおよび相談員について説明し周知させ、気軽に相談できるように配慮している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①オリエンテーション資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 課外活動については全学的な方針に従って取り組んでいる。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	コンケン大学(タイ)との交流会、認知症カフェ、劇団危防などのへの参加を促した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①社会連携センターニュース ②学長室ブログ
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

薬学部

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 教育研究環境の整備に関する方針は薬学部教授会で報告されており教職員で共有している。 <input type="checkbox"/> 校地・校舎・施設・設備の維持・管理、安全・衛生の確保については建物委員会が検証しており、問題点については薬学部事務室を通して改善を依頼している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。

年度報告	実習運営委員会(兼 建物委員会)で実習室の運用について検討した。講義室の椅子の修理や研究室の空調の修理など、薬学部事務室を通して改善を依頼するなど、整備に努めている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> マルチメディア室1・2、医薬品情報室、TDM演習室は、情報処理基礎、総合薬学演習Ⅰ～Ⅲ、ファーマシューティカルケア総合演習など多くの講義演習で活用している。 <input type="checkbox"/> 実習・実験施設は、実習Ⅰ～Ⅳ、事前学習、課題研究Ⅰ・Ⅱなどで活用している。 <input type="checkbox"/> 図書館分館や自己学習室などは学生が自己学習で活用している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①H30年度シラバス ②図書館運営委員会資料(入館者数一覧(延人数))
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取り組んでいますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 新棟準備委員会ではキャンパス・アメニティやバリアフリー化の検証を行い、教育環境の向上と改善すべき問題点を薬学部新棟案に盛り込んで提案している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保などは、全学的な対応として未来創造館の設計などに反映されている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①佐藤総合計画(株)との打ち合わせ議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理などについての問題点は、薬学部事務室を通して改善をしている。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。

年度報告	講義室の椅子の修理や研究室の空調の修理など、薬学部事務室を通して改善を依頼するなど、整備に努めている。新棟竣工後に解体される10号館講義室のプロジェクターや椅子など、31、34号館のプロジェクターなど修理されていないままのものがあり、授業に支障が出ている。
達成度	C
改善課題	授業に支障がでないように管理を要望する。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	授業に支障がでないように管理を要望する。
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 火災検知器などの防災・防火設備は、全学的な方針に従って整備点検を行っている。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度福山大学における学生の安全衛生委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 安全衛生委員会の方針に従って、毒劇物の管理は各実習・研究室単位で管理しており、使用記録を取っており、年に1回在庫量を確認して薬学部事務室に報告している。 <input type="checkbox"/> 危険物については、取り扱い責任者を定めた危険物倉庫で管理している。 <input type="checkbox"/> 放射性同位元素(RI)については、RIセンターの規則に従って管理している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①毒物・劇物保管リスト
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 薬学部防災安全対策委員会を組織し、避難経路の掲示などの取り組みを行っている。 <input type="checkbox"/> 安全衛生委員会に従って、安全教育・啓発を行っている。 <input type="checkbox"/> 実習ならびに研究室ごとに日頃から安全教育を行っている。 <input type="checkbox"/> 災害時避難マニュアルは全学的に作成されている。 <input type="checkbox"/> 防災訓練等を実施については全学的な取り組みに参加している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。

達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度オリエンテーション資料
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

薬学部

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 学部学生に対しクラス担任・研究室教員など全教員による相談、対応、助言、指導を行っている。 <input type="checkbox"/> 収集された意見は内容に応じて関連委員会に伝えられ対応している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 学部学生に対しクラス担任・研究室教員など全教員による相談、対応、助言、指導を行っている。 <input type="checkbox"/> 必要であれば保健管理センターに相談している。 <input type="checkbox"/> 収集された意見は内容に応じて関連委員会に伝えられ対応している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①オリエンテーション資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 学部学生に対しクラス担任・研究室教員など全教員による相談、対応、助言、指導を行っている。 <input type="checkbox"/> 収集された意見は内容に応じて関連委員会に伝えられ対応している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S

改善課題	
根拠資料	①オリエンテーション資料
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

薬学部

基準3. 教育課程

領域：卒業認定、教育課程、学修成果

2018年度

薬学部

中長期計画	<p>□薬学部のカリキュラムはコアカリに準拠しており、臨床の現場において生命に関わる薬学専門家として相応しい行動をとるために必要な教養や医療倫理観とともに専門知識と技能が修得できるように構築されている。</p> <p>□薬学部の目的を掲げて教育を行い、ディプロマポリシーに沿った学生を輩出する。</p> <p>□ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーとの一貫性について、以下の適切性を検証していく。</p> <p>1) 順次性、体系性</p> <p>2) 大目標、中目標、小目標</p> <p>3) 教育目標に定めた能力を獲得するための教育内容および評価方法</p> <p>4) 外国語教育</p> <p>5) 汎用的能力を育むための授業</p> <p>□カリキュラムを実践していく上で、能動的学修が増えてくる。効果的且つ効率的に実施するための人的資源及び物質的資源を一層充実させていく必要がある。</p> <p>□医療安全教育については、多方面の非常勤講師に依頼して充実化を図る。</p> <p>□問題・課題を発見・解決する能力を醸成するために課題研究を充実させる。</p> <p>□薬剤師として必要になる知識を統合して活用できるようになるために、大学教員や外部講師による演習などを開催する。また、e-ラーニング導入・改善などの新たな対応を検討する。</p> <p>□プレイスメントテストにより入学者の基礎学力を把握し、入学後の教育に生かしていく。</p> <p>□学生の評価が高いチューターおよびメンター制度を今後も継続する。</p> <p>□2015年度より開始した改訂コアカリに準拠した新カリキュラムを年次進行に伴い検証する。</p>
-------	--

2018年度

薬学部

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	<p>□教育目標(薬学部の目的)、学位授与方針(ディプロマポリシー)は、2014年度に、2013年度に文部科学省が策定した「薬剤師に求められる10の資質」および「改訂コアカリ」に沿ったものであるよう改訂した。</p> <p>□大学要覧、学生便覧、大学ホームページなどで公表している。</p>
年度目標	□現状維持。
年度報告	ディプロマポリシーについては、従来より詳細に記載し周知した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	<p>①薬学部ホームページ(http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharm/contents/ad-policy.html)</p> <p>②2019年度学生便覧</p>
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ルーブリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 学部教務委員会や学部カリキュラム・教育評価検討委員会が原案を策定し、学部教授会で承認を得ている。 <input type="checkbox"/> 学生便覧に明記し、大学ホームページで公表している。 <input type="checkbox"/> ルーブリックに関しては、順次導入していて、対象の科目のオリエンテーションで説明している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。 <input type="checkbox"/> 平成32年度の新カリキュラムの完成に向けて、卒業認定基準等の評価指標を策定していく。
年度報告	<input type="checkbox"/> 現状を維持した。 <input type="checkbox"/> ディプロマポリシーを踏まえたアセスメントポリシーや学修成果の評価方法を策定し、薬学部教授会で承認した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部教授会議事録 ②薬学部ホームページ(http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharm/contents/ad-policy.html) ③2019年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 単位認定基準、進級基準、修了認定基準は学生便覧、大学ホームページ等で公表し、単位認定、進級、卒業認定は教務課、学科、学部で審議し、全学教授会で承認を受けているので、厳正に適用されている。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2018年度学生便覧 ②大学ホームページ(http://www.fukuyama-u.ac.jp/archives/036/201806/youken_H30.pdf) ③薬学部教授会議事録 ④全学教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

薬学部

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)は、2014年度に、2013年度に文部科学省が策定した「薬剤師に求められる10の資質」および「改訂コアカリ」に沿ったものであるよう改訂した。 <input type="checkbox"/> 大学要覧、学生便覧、大学ホームページなどで公表している。

年度目標	□カリキュラム・ポリシーを、文部科学省の中央教育審議会答申のガイドライン(平成28年3月)に沿うように、改定案を策定し、学内外に周知する。
年度報告	□カリキュラムポリシーについては、ディプロマポリシーとの間に一貫性があるかどうかを検証し、改訂した。 □改訂版はホームページに掲載しており、2019年度学生便覧で公表する。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部ホームページ(http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharm/contents/ad-policy.html) ②2019年度学生便覧 ③平成30年度薬学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	□ディプロマ・ポリシーとの間に一貫性があるように、カリキュラム・ポリシーを策定している。
年度目標	□現状維持。
年度報告	カリキュラムポリシーについては、ディプロマポリシーとの一貫性が明確になるように改訂した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部ホームページ(http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharm/contents/ad-policy.html) ②2019年度学生便覧 ③平成30年度薬学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	□カリキュラム・ポリシーに従い、年次進行に伴ってパフォーマンスレベルが順に高度化するように、順次性のあるカリキュラムを編成している。
年度目標	□現状維持。
年度報告	カリキュラム・ポリシーに従い、教育課程を体系的に編成している。カリキュラムツリーを作成して体系的であることを確認した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部教授会資料 ②薬学部履修系統図(カリキュラムツリー) ③平成30年度薬学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	□平成30年度入学生を例にとると、卒業に必要な186単位のうち、24～29単位を共通教育科目で取得しなければならない。単位構成比で約15%であり、十分と考えている。

年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2018年度学生便覧 ②大学ホームページ(http://www.fukuyama-u.ac.jp/archives/036/201806/youken_H30.pdf)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 6年制薬学教育の導入とともに、アクティブラーニングを積極的に実施しており、各学年においてSGDおよびPBLを取り入れた授業を導入している。 <input type="checkbox"/> 教授方法の工夫・開発は各担当教員に委ねており、各教員は授業評価アンケートの結果などを参考に、改善に向けて努力している。 <input type="checkbox"/> ゼルコバ、アザレア、セレッソといったICT環境が整備されており、学修支援に利用している教員も増えてきている。 <input type="checkbox"/> 学生の評価が高いチューターおよびメンター制度を実施している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	<input type="checkbox"/> 現状を維持した。 <input type="checkbox"/> 薬学教育支援システムPESSシステムを利用して教育を充実させている。今回、システムはリースで行くが、システム用サーバーは買い取ることになった。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2018年度薬学部シラバス ②2018年度授業評価アンケート
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ディプロマポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 文部科学省の中央教育審議会答申のガイドライン(平成28年3月)に従い、ディプロマ・ポリシーへの到達度を評価するための卒業判定ルーブリックの策定にむけて、全学的な取り組みに能動的に参画している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 薬学部では、平成32年度卒業生から本格的な導入を考えており、そのためのトライアルに向けて準備を進める。
年度報告	ディプロマ・ポリシーへの到達度を評価するための卒業判定ルーブリックの策定し、次年度から検証を始める。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部教授会資料
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 学科のアセスメントポリシーはまだ策定していない。 <input type="checkbox"/> 学修成果(DPの到達度)の点検・評価方法は現在構築中である。
年度目標	<input type="checkbox"/> 学科のアセスメントポリシーを策定する。 <input type="checkbox"/> 学修成果(DPの到達度)の点検・評価方法を構築する。
年度報告	<input type="checkbox"/> 三つのポリシーを踏まえた学科のアセスメントポリシーを策定し、教授会で承認した。 <input type="checkbox"/> 学部カリキュラム・教育評価検討委員会で学修成果(DPの到達度)の点検・評価方法の原案を構築し、教授会で承認した。 <input type="checkbox"/> 特に、薬剤師としての実践的評価は実務実習後OSCE(PCC OSCE)については、トライアルを実施し、検証した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部教授会資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> <u>科目レベル</u> :授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を授業担当教員にフィードバックしている。授業担当教員は、授業の改善計画を報告書に記載し大学教育センターに提出するとともに、学生にフィードバックしている。このPDCAサイクルによって、改善につなげている。 <input type="checkbox"/> <u>DP(資質)レベル</u> :学修成果の点検・評価方法はまだ確立していない。
年度目標	<input type="checkbox"/> 科目レベルの学修成果の点検・評価方法として使用している授業評価アンケートは継続する。 <input type="checkbox"/> DP(資質)レベルの学修成果の点検・評価方法を構築する。
年度報告	<input type="checkbox"/> 科目レベルの学修成果の点検・評価方法として使用している授業評価アンケートは継続した。 <input type="checkbox"/> 学部カリキュラム・教育評価検討委員会で学修成果(DPの到達度)の点検・評価方法の原案を構築し、教授会で承認した。 <input type="checkbox"/> 特に、薬剤師としての実践的評価は実務実習後OSCE(PCCOSCE)については、トライアルを実施し、検証した。改善に向けて検討中である。 <input type="checkbox"/> 実務実習を終えた学生(6年生)を全国学生ワークショップに派遣した。ワークショップでは6年制薬学教育の成果と課題について議論し、プロダクトを作成しており、それは薬学教育の改善に利用できる。 <input type="checkbox"/> 若手薬学教育者WSに教員を派遣し、学習指導の改善につなげた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①授業評価アンケート ②薬学部教授会資料 ③日本薬学会全国学生ワークショップ報告書 ④日本薬学会若手薬学教育者ワークショップ報告書

次年度の課題 と改善の方策	
------------------	--

2018年度

薬学部

基準4. 教員・職員

領域：教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

2018年度

薬学部

中長期計画	<p>□薬学部教授会で承認された薬学部内諸委員会を設置し、その委員会で薬学部の教学に関する重要事項の原案を作成し、薬学部教授会に提案し、承認をえて実施しており、権限・役割を適切に分散し、責任を明確化して教学マネジメントを機能性をたかめながら実施しており、今後も継続していく。</p> <p>□薬学部教員数は現在41名（うち教授22名）で大学設置基準の教員数（32名、うち教授16名）は満たしており、また、実務家教員数（7名）は必要教員数（6名）を充足している。しかしながら、6年制薬学教育では実務家教員の役割が大きいので、教員数の2割程度まで実務家教員を増員していく。</p> <p>□薬学教育評価機構から「改善すべき点」として、「教員一人当たりの学生数が20名を超えている」ことが指摘されており、今後改善するために若手を中心とした教員の補充を要望し実施していく。さらに、薬学部内での女性教員の割合が少ないので、出来るだけ女性教員を採用する努力をする。</p> <p>□教員の資質向上のために、全学的なFD・SDには積極的に参加するように全教職員に促す。また、薬学部内でも年に数回FD・SDを実施しており、今後も継続して実施していく。</p> <p>□研究に関しては、全体的に停滞気味なので、活性化するように促していく。また、研究助成金などの情報については多くの教員が申請できるように学部内で共有していき、多くの教員が申請するように促していく。</p>
-------	--

2018年度

薬学部

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	□大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されている。薬学部においては、学部長の他学部長補佐1名、学科長2名を配置し、薬学部の教学マネジメントを実施しており、学部長は適切にリーダーシップを発揮している。
年度目標	□現状維持。
年度報告	□現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部教授会議事録
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	□薬学部教授会で承認された薬学部内諸委員会を設置し、その委員会で薬学部の教学に関する重要事項の原案を作成し、薬学部教授会に提案し、承認をえて実施しており、権限・役割を適切に分散し、責任を明確化して教学マネジメントを実施している。
年度目標	□現状維持。

年度報告	<input type="checkbox"/> 現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度薬学部内委員会 ②薬学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネジメントの機能性を高めていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 薬学部事務職員の役割は負担が大きく、人員が不足している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 人員増員を要望する。
年度報告	職員は少ない人数で業務内容が多岐にわたるため、業務分担を行い、業務の効率化を図っているが、教員、他部署との協力により要求されている業務に対して何とか応えている状況である。薬学部事務職員の役割は負担が大きく、人員が不足している。薬学部事務職員の増員については、事務長を通して要望している。
達成度	B
改善課題	今後も要望をお願いする。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

薬学部

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 改訂モデル・コアカリキュラムを基盤とした講義・実習・演習の科目を設定して、それぞれの科目には相当する資質をもった教員を配置している。 <input type="checkbox"/> 定年や移動により欠員が生じたときには公募し、応募してきた者について選考委員会を立ち上げ審査している。そこで必要とする資質を有しているかを見極めた上で、その科目の担当教員として採用するようにしている。 <input type="checkbox"/> 薬学部内での女性教員の割合が極めて小さい。 <input type="checkbox"/> 教員の年齢バランスは特に悪くはない。 <input type="checkbox"/> 他の職階に比べて准教授と助教の人数が少ない。
年度目標	<input type="checkbox"/> 薬学部内での女性教員の割合が小さいので、出来るだけ女性教員を採用する努力をする。 <input type="checkbox"/> 若手を中心とした教員の補充に向けて努力する。
年度報告	<input type="checkbox"/> 薬学部の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置している。 <input type="checkbox"/> 来年度から女性教員が1名、女性の助手1名が採用になることが決まっている。 <input type="checkbox"/> 現在3名の教員を公募中であり、若手を中心とした教員の補充に向けて努力していく。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①薬学部人事教授会議事録

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 薬学部教員数は現在41名（うち教授22名）で大学設置基準の教員数（32名、うち教授16名）は満たしており、また、実務家教員数（7名）は、大学設置基準における必要教員数（6名）を充足している。 <input type="checkbox"/> 薬学教育評価機構から「改善すべき点」として、「教員1人当たりの学生数が20名を超えている」ことが指摘されており、現在、実務家教員2名を公募しているが、それでも現状は改善されない。
年度目標	<input type="checkbox"/> 教員1人当たりの学生数が20名を下回るように、現在継続募集中の教員に加え、さらに教員の増員を要望する。
年度報告	<input type="checkbox"/> 薬学部教員数は大学設置基準の教員数及び必要な実務家教員数を充足している。 <input type="checkbox"/> 教員の増員を要望し、来年度新規採用教員が3名、現在公募中教員が3名である。しかしながら、今年度末で4名が退職するので、教員1人当たりの学生数が20名を下回るように、さらに教員の増員を要望する必要がある。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①薬学部人事教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development;教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取り組みを行っていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 薬学部の教員を対象として、教育面および研究面の資質の向上に資すると考えられるテーマを設定し、年間4～5回のFDを開催している。これには薬学部のほとんどの教員が参加している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	教員の資質向上に役立つように、今年度は、薬学部のFD・SD研修会を6回開催し、薬学研究科のFD・SD研修会を1回開催した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度薬学部・薬学研究科FD・SD研修会報告書
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

薬学部

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development;教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 平成29年度全職員でSD研修（4グループ）に参加した。 <input type="checkbox"/> 薬学部FD・SD研修に4回参加した。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	平成30年度第1回SD研修（ミドルマネジメント）、平成30年度第2回SD研修に参加した。薬学部FD・SD研修会に5回参加した。

達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30年度薬学部・薬学研究科FD・SD研修会報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 全学で導入しているOffice365を利用し、ファイル等を共有している。
年度目標	<input type="checkbox"/> Office365を利用し、事務処理の効率を図る。
年度報告	平成29年度から検討していた修理進捗状況確認表を用度課を基点としてファイル共有を稼働した。 年間見積りのデータベース作成により物品購入の効率化を図った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①修理進捗状況確認表(用度課).xls https://fukuyamauniv.sharepoint.com/:x:/r/sites/syuurikankei/
次年度の課題と改善の方策	

2018年度 薬学部

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 教員は、事務作業や会議等にかかなりの時間を取られており、研究する時間は十分ではない。 <input type="checkbox"/> 研究のための施設設備は老朽化し、その整備、更新、新しい機器の導入は不十分である。 <input type="checkbox"/> 新棟の研究環境について計画中である。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現有設備の整備、新しい機器の導入を要望していく。 <input type="checkbox"/> 新棟での研究施設設備の設置、管理体制について計画する。
年度報告	<input type="checkbox"/> 教員は、事務作業や会議等にかかなりの時間を取られており、研究する時間は十分ではない。 <input type="checkbox"/> 新棟竣工後の新しい機器への更新を考慮し、最小限の現有設備の整備、新しい機器の導入を要望し、それらは本年度補正予算で購入された。 <input type="checkbox"/> 新棟での研究施設設備の設置、管理体制については大枠は決まっているが、詳細については今後の検討である。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①機器納品書
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 研究倫理の遵守について、研究倫理委員会、不正防止計画推進室が設置され、研究倫理に関する学内規定は整備されている。 <input type="checkbox"/> 不正防止計画推進室の指導のもと、研究関連ガイドブックが作成され、eラーニングを使うなどして、全教職員、学生に対してコンプライアンス教育・研究倫理教育がなされている。 <input type="checkbox"/> これらは、コンプライアンス推進責任者により定期的にモニタリングされている。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度研究活動不正防止計画推進室会議議事録 ②eラーニング修了書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 大学内の責任体系が構築され、相互のモニタリング、検証のもとに、適正に配分されている。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか
現状説明	<input type="checkbox"/> 公的研究費の運営・管理は責任体系が構築されており、コンプライアンス教育にて周知されている。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学HP(公的研究費不正使用防止の取り組み(https://www.fukuyama-u.com/research/)) ②平成30年度研究活動不正防止計画推進室会議議事録 ③eラーニング修了書
次年度の課題と改善の方策	

基準6. 内部質保証**領域：組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル**

中長期計画	<input type="checkbox"/> 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクルは問題なく運用されているため、現状を維持する。 <input type="checkbox"/> 薬学教育評価機構の第三者評価に適合できるよう問題点の抽出と改善を実施していく。 <input type="checkbox"/> 入試種別、GPA、進級、卒業、国家試験など、学生指導に役立てることを念頭に、データの収集・解析を継続する。解析結果は教授会で報告し、学生指導に役立てていく。
--------------	--

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 福山大学自己点検評価規程に基づき、質保証を検証する組織として、学部内に自己点検評価委員会・外部評価対応委員会を設置している。委員長は学部長が務め、学部内責任者となっている。 <input type="checkbox"/> 毎年、上記委員会が学部平成30(2018)年度 自己点検・評価書及び計画書を作成し、それらを全学自己点検評価委員会・外部評価対応委員会および改革推進委員会が点検している。改革推進委員会が自己点検・評価に関わる全学的な最終責任者となっている。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度福山大学自己点検評価書 ②福山大学自己点検評価規程 ③福山大学薬学部自己点検評価委員会細則
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 6-1-①で記載したように、自主的・自律的な自己点検・評価を実施している。これらの結果は、ゼルコバおよび福山大学ホームページにアップロードして学部教職員が閲覧できるようにしている(結果を共有している)。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度福山大学自己点検評価書 ②福山大学HP (http://www.fukuyama-u.ac.jp/info/disclosure/self-evaluation.html) ③福山大学キャビネットkarin(薬学科)

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 薬学部IR委員会を組織し、入試種別、GPA、進級、卒業、国家試験など、学生指導に役立てることを念頭に、データの収集・解析を行っている。 <input type="checkbox"/> 解析結果は教授会で報告し、学生指導に役立てている。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部情報共有ページ(アップローダー) (http://houkoku.fupharm.fukuyama-u.ac.jp/pine/upload/upload.cgi?) ②薬学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

薬学部

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 学部が実施する自己点検評価書は、全学で定められた書式を用いて作成している。この書式では、各点検項目について現状説明を記載し、当該年度に実施する年度目標を年度初めに記載する(P)。この年度目標に従って教育活動を展開し、年度末にそれを年度報告欄に記載している(D)。また、その目標に対する達成度をS、A、B、Cの4段階で自己評価している(C)。そして、次年度の改善課題と方策を記載している(A)。 <input type="checkbox"/> 機能性は福山大学自己点検評価書において検証している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度福山大学薬学部自己点検評価書 ②平成30年度福山大学自己点検評価書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 不正防止計画推進室の学部委員により、コンプライアンスにかかわる具体策の実施、研修会等受講状況管理、モニタリング・改善指導、状況報告を行っている。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	

根拠資料	①薬学部教授会議事録 ②平成30年度研究活動不正防止計画推進室会議議事録 ③e-ラーニング修了書
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

薬学部

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域：本学独自基準と点検・評価

2018年度

薬学部

中長期計画	<p>□本学が瀬戸内のほぼ中央に位置し、瀬戸内圏を主な研究活動の範囲としていることから、「瀬戸内の里海・里山学」をコンセプトとする研究や社会連携等を全学的に遂行することで、大学独自のブランドの確立を提案している。そのブランディング戦略には、4つの研究テーマが設定されており、以下のテーマに薬学部として本学ブランディング戦略に係わりながら、教育研究を実施していく。</p> <p>* 里山・里海のひと・まち・くらしの創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然と共生し、持続可能で住みやすいまち・くらし <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病の新たな治療方法の開発 ・健康の維持・増進に関する研究 ・里のくらしを支える介護・看護支援システム <p>□薬学部独自のブランディング戦略としては、下記のような市民の健康維持のための貢献活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬学教育を実施し、地域医療に貢献する薬剤師を輩出していく。 ・地域の企業・医療機関と密に連携し、地域医療に貢献していく。 ・産官学民が連携し備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献していく。 ・福山大学独自の教育を充実していくとともに、広く社会に周知していく。 ・グリーンサイエンス研究センターと連携して特別研究を実施する。
-------	--

2018年度

薬学部

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	❶ 福山大学ブランディング戦略（ver. 2018）の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	□現時点では、周知は不十分である。
年度目標	□福山大学ブランディング戦略の概略について共通認識をもつ。
年度報告	福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクトは、学部内に掲示し、さらに福山大学キャビネットkarin等に掲載し、周知に努めている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学キャビネットkarin（薬学科→H30年度薬学部の基本的事項（薬学部全教職員））
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	㊦ 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 地域医療に貢献できる薬剤師を養成している。 <input type="checkbox"/> 問題解決能力を有する薬剤師を輩出している。 <input type="checkbox"/> 地域の医療機関において治験審査委員などを派遣し、地域医療に貢献している。 <input type="checkbox"/> 地域の企業・医療機関などと共同研究を行い、地域医療に貢献している。 <input type="checkbox"/> グリーンサイエンス研究センターと連携して特別研究を実施している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度薬学部教授会議事録 ②福山大学グリーンサイエンス研究センターHP「福山大学特別研究（H30年度～）『新規アプローチを介したインテグリン阻害剤の開発～副作用軽減を期待できる次世代自己免疫疾患治療への創薬基盤～』」(http://web.fukuyama-u.ac.jp/green/htmls/project.html)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊧ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」の方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 次に挙げる項目を実施することで、未来創造人を育成していく。 1) 地域医療のための講演会や学会・研究会に講師を派遣している。 2) 学内外組織との共同研究を実施している。 3) 地域の保育施設・高齢者施設と連携し、コミュニケーション交流学习を実施し、人間性を高めている。 4) 国際交流センターが主導するUCR集中英語研修への学生の参加を積極的に勧めている。 5) コンケン大学(タイ)薬学生の日本での薬学研修に協力している。 6) 海外(アメリカ)のドラッグストア視察研修を勧めている。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部教授会議事録 ②平成30年度コミュニケーション交流学习報告書
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献するために、福山大学薬学部・福山市薬剤師会シリーズ研修会や研究成果発表会などに取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 実務実習、早期体験学習、コミュニケーション交流学习については、報告書にまとめ、その成果を検証している。 <input type="checkbox"/> グリーンサイエンス研究センターと連携した特別研究を企画し実施し、研究成果を学会等で発表して評価を受けている。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度大学院研究成果発表会 ②平成30年度の実務実習報告書、コミュニケーション交流学习報告書、早期体験学習報告書 ③福山大学グリーンサイエンス研究センターHP (http://web.fukuyama-u.ac.jp/green/htmls/project.html)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 地域の中核となる薬剤師を養成するため、地域と連携した教育研究を推進し、成果は薬剤師養成率と就職率で検証している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部教授会議事録 ②薬剤師養成率(薬学部HP(http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharm/original/entry-2225.html)) ③就職率(全学教授会資料)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 地域の企業・医療機関などと共同研究を行い、地域医療に貢献している。 <input type="checkbox"/> 実務実習、早期体験学習、コミュニケーション交流学习を実施し、その成果は報告書にまとめ検証している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S

改善課題	
根拠資料	①薬学部教授会議事録 ②福山大学グリーンサイエンス研究センターHP (http://web.fukuyama-u.ac.jp/green/htmls/project.html) ③平成30年度の実務実習報告書、コミュニケーション交流学习報告書、早期体験学習報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㉦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 薬学入門、コミュニケーション交流学习、病院・薬局実務実習の科目で地域社会における学習を実施し、学問にのみ偏重しない全人教育に取り組んでおり、その成果を報告書で検証している。 <input type="checkbox"/> 福山市や地域の薬剤師と連携して、健康ふくやま21フェスティバルや健康サポートフェア等において地域住民に対して健康に係わる啓発に取り組んでいる。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度の実務実習報告書、コミュニケーション交流学习報告書、早期体験学習報告書 ②薬学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

薬学部

中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	㉠ 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取り組んでいますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 生活習慣病の新たな治療方法の開発、健康の維持・増進に関する研究に取り組んでいる。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学グリーンサイエンス研究センターHP (http://web.fukuyama-u.ac.jp/green/htmls/project.html)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㉡ 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 学内研究助成金と共同研究費、科研費、企業助成金などの獲得に努めている。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。

年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部教授会議事録 ②福山大学グリーンサイエンス研究センターHP (http://web.fukuyama-u.ac.jp/green/htmls/project.html)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊦ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 各教員が個々に関連する学会において、その研究成果を発表している。 <input type="checkbox"/> 福山市薬剤師会などの外部組織と連携して研修会で最新の得られた知見を含め講演している。 <input type="checkbox"/> 各地の薬剤師会、医師会、学会などの研修会に講師として講演している。 <input type="checkbox"/> 研究成果発表会などで発表している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学薬学部研究年報 ②平成30年度大学院研究成果発表会
次年度の課題と改善の方策	